

## 編集後記

『国文学雑誌』一〇六号をお届けします。

本号は専任教員の三本の論文と二〇二一年度の卒業生の論文三本、計六本の論文を掲載することができました。分野別では、日本語学（古典語系一本、近現代語系二本）三本、古典文学一本、近代文学が二本となっています。

『藤女子大学国文学雑誌』一号が世に問う形で発行されたのは、一九六七年三月、「学園紛争」で日本の大学が揺れていた時期です。つまりそれから半世紀、五五年の歴史をくぐり抜けてきた雑誌ですが、そのなかでも卒業生の優秀な卒業研究（論文）が三本も載るのは近年めずらしいことと思います。特に新型コロナウイルス感染症のパンデミックにあつて、卒業研究ゼミもオンライン授業を強いられたなかで指導にあたった教員も隔靴搔痒の状態ではなかったかと思いますが、ここに無事掲載されたことは喜ばしい限りです。というのも、藤女子大学文学部には残念ながら大学院がなく、本学科の研究・教育水準を世に問うことができるのは、主に当雑誌になりますので。

卒業生の論文掲載までのプロセスは既に一〇二号の「編集後記」に詳しく書かれてありますのでそちらを参照にしていたと思いますが、まず優秀な卒業研究（論文）の推薦が指導教員あり、指導教員以外の専任教員によって査読が行われ、最終的には最後

の手直しがされて掲載に至るわけです。ですので、卒業生の論文掲載は学科全体の総意となっています。

自分の論文が初めて活字になった喜びは今でも忘れませんが、あらためてその初心を忘れず編集子も研究・教育に携わっていきたいと思います。

パンデミックのなかでも最大限サポートいただいた藤女子大学図書館にはこの場を借りてお礼を申し上げる次第です。

(S)

二〇二二年六月二十五日

印刷

二〇二二年六月三十日

発行

藤女子大学 国文学雑誌（第106号）

定価 五〇〇円

振替 〇二七〇〇一四一六八〇七番

編集人

発行人

札幌市北区北十六条西二丁目

発行所 藤女子大学日本語・日本文学科学研究室内

藤女子大学日本語・日本文学系

印刷所 札幌市中央区北六条西十八丁目

(株)491アヴァン札幌